

# 地域医療を守り・育てる住民活動全国シンポジウム報告



平成 26 年 2 月 1 日（土）と 2 日（日）の 2 日間、栃木県下野市の自治医科大学地域医療情報研修センターにおいて、住民・行政・医療関係者等を一堂に会し、「地域医療を守り・育てる住民活動全国シンポジウム 2013」を開催しました。

当初は 10 月に予定されていた本シンポジウムですが、台風 26 号と 27 号接近に伴う交通機関の乱れ等が予想された結果、2 月に延期開催することとなりました。延期しての開催にもかかわらず、北は青森県から南は宮崎県まで 77 名の方にご参加いただき、無事に全日程を終えることができました。

## 1. 開会挨拶

主催者を代表して、公益財団法人地域社会振興財団西浦敬事務局長より開会の挨拶をいただきました。



## 2. 趣旨説明

趣旨説明では、梶井英治氏（自治医科大学地域医療学センター長）に本シンポジウムの目的、流れ等についてスライドを交えながらご説明いただきました。



## 3. 事例紹介

朝顔のたねー千厩病院を守り隊ー（岩手県一関市）の畠山とき子氏、佐藤大輔氏に、会の取り組みについて報告をいただきました。冒頭では、「話せるゆるキャラ（ライバルは“くまモン”だそうですく笑>）」の“おときばあさん”にも登場していただきました。



## 4. ワールドカフェ

もっと多くの方とコミュニケーションを取る機会を提供して欲しいというお声をいただいていたことから、今回のシンポジウムでは初めてワールドカフェという手法を取り入れました。席替

えを2回行うことによって、いつもよりも多くの方々とお話をすることができたのではないのでしょうか。時間が短かったために話し足りないという方もいらしたと思いますが、今回はこのような会話手法があるということを知っていただき、ぜひ所属している団体などでの話し合いの際に活用していただければと思います。



## 5. グループワーク

13グループ（1グループ6～7名）に分かれ、あらかじめ指名させていただいたファシリテーターがまとめ役となり、グループワークを行いました。



まず、神田健史氏（自治医科大学地域医療学センター助教）より、グループワークの進め方について説明がありました。その後、各グループ内でメンバーが順番にそれぞれの課題を発表、その中からグループにおける課題が選定され、その課題に対してのプロジェクトの立案をホワイトボード・付箋紙などを用いてグループ内で考えました。「課題に対する問題分析、ロジックツリーという手法を用いてプロジェクトを完成させる」というのがグループワークのテーマでした。

昨年行ったこの手法。2度目という方も多くいらっしやったので、昨年よりもスムーズに進めることができたのではないかと思います。



## 6. ポスター発表・交流会

昨年初めて行ったポスター発表が好評だったので、今回も交流会時にポスター発表会を行いました。

知ろう小児医療守ろう子ども達の会（東京都杉並区）代表の阿真京子氏（全国シンポジウム実行委員）の挨拶の後、事前に申込みをされた7つの団体の方より、各団体の行っている活動内容などが熱く語られました。会場の皆さんは発表内容に熱心に聞き入り、その場での質疑応答も行われました。

今年も福井県高浜町から、ゆるキャラの「赤ふん坊や」が登場。交流会の終盤には、“おときばあさん”と“赤ふん坊や”のコラボレーションで、巷で流行の「恋するフォーチュンクッキー」を踊り、交流会は大いに盛り上がりました。

最後は、実行委員である石橋和樹氏（島根県立中央病院医師・自治医科大学26期卒）の挨拶で締めくくりました。



## 7. 全体会

全体会では、完成したロジックツリーを元に13グループを4つに類型化し、小松憲一氏（自治医科大学地域医療学センター助教）の進行のもと、全てのグループに発表していただきました。



## 8. 講評および閉会挨拶

田中剛氏（厚生労働省医政局）より全体の講評を、また、梶井英治氏からも全体の講評と閉会の挨拶をいただきました。その後、参加者全員で写真撮影（冒頭の全体写真）を行い、無事に2日間の日程を終えました。